

分類：医療・社会・行動科学 IV

授業科目名：医療における安全性確保（Safety Management in Healthcare） - ヒューマンエラーとシステム構築 -

対象学年：4年次必修

時間割コード：71583011

開設学期等：第5週～第7週（毎週火曜日1-10時限）

単位数：0.5

### 1. 主任教員

木村 哲（准教授、医療安全管理部、6222、オフィスアワー：8:30-17:00）

### 2. 担当教員

木村 哲（准教授、医療安全管理部、6222、オフィスアワー：8:30-17:00）

美作宗太郎（教授、法医学講座、6094、オフィスアワー：随時（要アポイント））

長谷川仁志（教授、医学教育学講座、6096、オフィスアワー：随時（要アポイント））

奈良美保（講師、輸血部、6312、オフィスアワー：8:30-17:00）

笹淵航平（非常勤講師、医療安全管理部、6222、オフィスアワー：8:30-17:00）

小林育子（非常勤講師、医療安全管理部、6222、オフィスアワー：8:30-17:00）

### 3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

ねらい（大まかな全体目標）

医療現場で安全で質の高い診療を実践していくために、医療上の事故等（インシデントを含む）は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することにより、信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。（3 - 5）

また、関連するプロフェッショナルリズム、医療倫理、医療行動学、医療法（制度）、EBMについて学ぶ。（1 - 1～1 - 2、4 - 4）

概要（大まかな学修目標・項目）

1）医療上の事故等を防止するためには、個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。（3 - 5）

2）医療機関における医療安全管理体制の在り方（インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者（リスクマネージャー）、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度）を概説できる。（3 - 5）

3）医療上の事故等（インシデントを含む）と合併症の違いを説明できる。（3 - 5）

4）実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。（2 - 6、3 - 5）

5）医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。（2 - 4、3 - 5、4 - 5）

6）医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。（3 - 5、6 - 1）

7）医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤（事例や経緯を含む）やっではないけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。（3 - 5、5 - 3）

8）医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。（3 - 5、4 - 5）

9）真摯に疑義に応じることができる。（1 - 1～1 - 2、2 - 7）

10）医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。（3 - 5）

11）医療事故における異状死と司法解剖について概説できる。（3 - 5）

12）基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルブルーフの考え方等）を概説し、指導医の指導の下に実践できる。（3 - 5）

13）血液・血液製剤の副作用や有害事象とその対策について説明できる。（3 - 3、3 - 5）

14) 医療チームの構成や各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(2 - 3~2 - 6、3 - 5)

15) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。(2 - 1~2 - 8)

16) 本領域が関連するプロフェッショナリズム、医療倫理、医療法（制度）、EBM について説明できる。(1 - 1~1 - 2、3 - 3、3 - 5、4 - 4)

#### 4. 教科書・参考書

医療におけるヒューマンエラー（医学書院）

医療安全とリスクマネジメント（ヌーヴェルヒロカワ）

診療科目別正しい診療録の書き方（朝倉書店）

診療録の記載とプレゼンテーションのコツ（メジカルビュー社）

#### 5. 成績評価の方法

統一試験、出席、その他（全体討論でのプレゼンテーション）

#### 6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・日本医療安全調査機構が随時提示している「医療事故の再発防止に向けた提言」を閲覧し、内容を把握しておいてください。
- ・講義日程と担当教官が変更になることがあります。

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
1	5月9日 (火)	1-2 時限	講義	<p>テーマ：医療安全管理の概要</p> <p>1) 医療上の事故等を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。(3-5)</p> <p>2) 医療機関における医療安全管理体制の在り方(インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者(リスクマネージャー)、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度)を概説できる。(3-5)</p>	木村 哲	附属病院第二病棟2階多目的室
2	5月9日 (火)	3-4 時限	チュートリアル	<p>テーマ：インシデント事例検討</p> <p>医療上の事故等(インシデントを含む)と合併症の違いを説明できる。(3-5)</p>	木村 哲	実習棟2階チュートリアル室
3	5月16日 (火)	1-2 時限	講義	<p>テーマ：医療安全のためのコミュニケーション</p> <p>1) 実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に参与していることを具体的に説明できる。(2-6、3-5)</p> <p>2) 医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録(カルテ)改竄の違法性を説明できる。(2-4、3-5、4-5)</p> <p>3) 医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。(3-5、6-1)</p>	長谷川仁志	附属病院第二病棟2階多目的室
4	5月16日 (火)	3-4 時限	講義	<p>テーマ：医薬品の安全管理</p> <p>医療の安全性に関する情報(薬剤等の副作用、薬害、医療過誤(事例や経緯を含む)、やってはいけないこと、優れた取組事例等)を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。(3-5、5-3)</p>	笹淵航平	附属病院第二病棟2階多目的室
5	5月23日 (火)	1-2 時限	全体討議	<p>テーマ：インシデント事例検討</p> <p>1) 医療上の事故等(インシデントを含む)が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。(3-5、4-5)</p> <p>2) 真摯に疑義に応じることができる。(1-1~1-2、2-7)</p>	木村 哲	附属病院第二病棟2階多目的室
6	5月23日 (火)	3-4 時限	講義	<p>テーマ：法医学からみた医療事故と医療過誤</p> <p>1) 医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。(3-5)</p> <p>2) 医療事故における異状死と司法解剖について概説できる。(3-5)</p>	美作宗太郎	附属病院第二病棟2階多目的室
7	5月23日 (火)	5-6 時限	講義	<p>テーマ：患者誤認防止対策</p> <p>基本的予防策(ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセイフ・フールプルーフの考え方等)を概説し、指導医の指導の下に実践できる。(3-5)</p>	小林育子	附属病院第二病棟2階多目的室
8	5月23日 (火)	7-8 時限	講義	<p>テーマ：血液製剤の安全管理</p> <p>血液・血液製剤の副作用や有害事象とその対策について説明できる。(3-3、3-5)</p>	奈良美保	附属病院第二病棟2階多目的室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
9	5月23日 (火)	9-10時限	講義	<p>テーマ：ノンテクニカルスキル</p> <p>1) 医療チームの構成や各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(2 - 3~2 - 6、3 - 5)</p> <p>2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。(2 - 1~2 - 8)</p> <p>3) 本領域が関連するプロフェッショナリズム、医療倫理、医療法（制度）、EBMについて説明できる。(1 - 1~1 - 2、3 - 3、3 - 5、4 - 4)</p>	木村 哲	附属病院第二病棟2階 多目的室